

## 利尻島におけるウミバトの初記録

田牧和広<sup>1)</sup>・佐藤雅彦<sup>2)</sup>・小杉和樹<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 097-0211 北海道利尻郡利尻富士町鬼脇字清川

<sup>2)</sup> 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

<sup>3)</sup> 〒 097-0401 北海道利尻郡利尻町杵形字富士見町 利尻島自然情報センター

## First Record of Pigeon Guillemot from Rishiri Island, Northern Hokkaido

Kazuhiro TAMAKI<sup>1)</sup>, Masahiko SATO<sup>2)</sup> and Kazuki KOSUGI<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>Kiyokawa, Oniwaki, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0211 Japan

<sup>2)</sup>Rishiri Town Museum, Honcho, Senhoshi, Rishiri Island, Hokkaido, 097-0311 Japan

<sup>3)</sup>Informative Center for Natural Environment of Rishiri, Fujimi-cho, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

**Abstract.** One pigeon guillemot, *Cepphus columba* Pallas, 1811, was observed on December 2006 from Rishiri Island, northern Hokkaido, for the first time.

2006年12月4日、利尻島雄忠志内漁港においてウミバト *Cepphus columba* が以下のとおり観察されたので、報告する。なお、写真のご提供と稚内の記録についてご教示いただいた疋田英子氏（稚内市）、識別についての貴重なご意見と本稿のご校閲をいただいた小野宏治氏（環境省釧路自然環境事務所）に心からお礼申し上げる。

観察された個体（図1）の大きさはウミガラスより小さく、色は全体が灰色で、ほぼ同じ大きさのケイマフリの色合いとは異なってみえた。翼は黒色で、雨覆には大きな白斑を有し、その長楕円形の白斑中央部には楔形の黒帯が入っていた。頭部から胸にかけては灰白色で、頭頂と目の周辺および過眼線は黒色であった。上背は暗灰色に見え、細い暗灰色

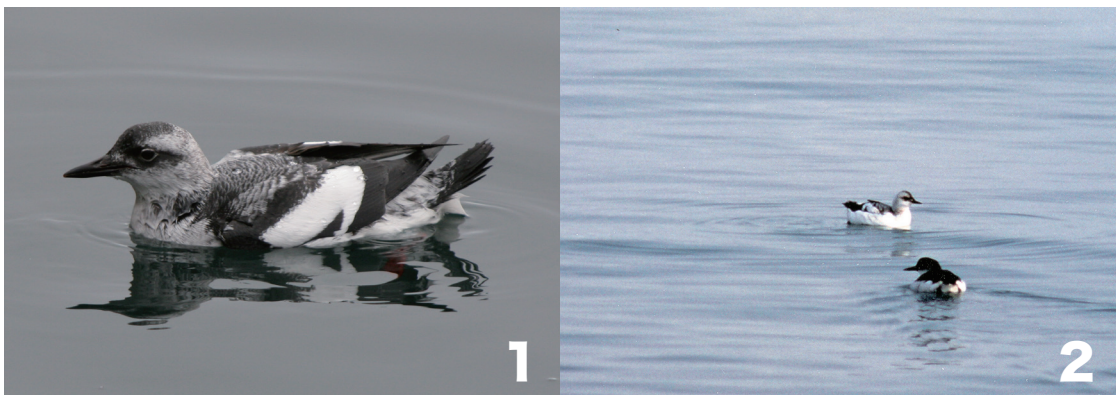


Fig. 1. A pigeon guillemot observed on 4 December 2006 at Rishiri Island. Photo by M. Satô.

Fig. 2. A pigeon guillemot with a spectacled guillemot on 23 January 2000 at Wakkanai port. Photo by H. Hikita.

の横帯が認められた。嘴は黒色で、潜水時によく見られる脚は朱色をしていた。これらの特徴等からウミバト成鳥冬羽と思われた。同個体を10時30分より13時30分までのおよそ3時間ほど観察したが、ウミガラスやケイマフリにも見られる次のような行動を繰り返していた。漁港内で羽毛の手入れや海面上での羽ばたきを行うほか、頻繁に潜水行動を繰り返し時折小魚が嘴に咥えられているところが目撃された。本個体は12月4日以降も同港に留まり、12月21日まで筆者らの観察は継続された。

ウミバトは主に北海道東部に冬鳥として訪れるが（日本鳥類目録編集委員会，2000；藤巻，2000；真木・大西，2000），道北では非常にまれな冬鳥と考えられている。筆者らの知る限り道北地域では、2000年1月23日に疋田英子氏（稚内市）が稚内市稚内港にて『ケイマフリに寄り添うように海面を』泳いでいた1羽（図2）の写真撮影に成功した記録のみと思われる（北海道新聞社，2000）。利尻島での確認は今回が初めてとなった。国内ではウミバト *C. c. snowi* Stejneger, 1897 とアリュシャンウミバト *C. c. kaiurka* Portenko, 1937 の2亜種が確認されているが（藤巻，2000），今回観察された個体の雨覆の白斑は極めて顕著であることから、アリュシャンウミバトに属するものと思われ

る（Harrison, 1985; Storer, 1950）。

#### 参考文献

- 藤巻裕蔵，2000. 北海道鳥類目録改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室. 83 pp.
- Gaston, A. J., & Jones, I. L., 1998. Pigeon Guillemot in *The Auks*, pp. 178-186. Oxford University Press. Oxford, United Kingdom.
- Harrison, P., 1985. *Seabirds - an identification Guide*. 448 pp + 88 pl. London.
- 北海道新聞社，2000. ウミバト稚内港に. 北海道新聞（2月15日）. 北海道新聞社.
- 小杉和樹，2000. 利尻島における月別鳥類出現リスト. 150-155 pp. 寺沢孝毅（編）. 北海道島の野鳥. 北海道新聞社. 札幌.
- 日本鳥類目録編集委員会，2000. 日本鳥類目録. 改訂第6版. 日本鳥学会，京都. 345 pp.
- 真木広造・大西敏一，2000. 日本の野鳥590. 平凡社. 655 pp.
- Storer, R. W., 1950. Geographic variation in the pigeon guillemots of North America. *The condor*, 52: 28-31.
- 高野伸二，1995. フィールドガイド日本の野鳥・増補版. 日本野鳥の会. 343 pp.